

講演会から「幼児教育」と「授業づくり」について学ぶ

所外研修として、5月8日(木)に沖縄県公立幼稚園・幼稚園長会の「記念講演」、5月9日(金)に沖縄県立総合教育センターの「教育講演会」に出かけました。

両日とも講師は、東京大学大学院教育学研究科 秋田喜代美教授。8日は「幼児教育の質の向上をはかるために」、9日は「たしかな学びを育てる授業づくりのために」と題して講演が行われました。両日ともに300名程の参加の中、本所の教育研究員の5名も熱心に学びました。



写真1 「記念講演会」の様子



写真2 「教育講演会」へ参加

【8日の「記念講演会」の概要】

○認定こども園の告示

- 1 保育の質とは
  - (1) 保育における質
  - (2) 学びを深める問いかけ
  - (3) 保育の質に関する共通指標
  - (4) 乳幼児期にこそ培いたい豊かな遊び
  - (5) 英国での研究における「良質の保育とは」を参考に
- 2 4つの見る力を育てる
- 3 子どもの経験から振り返る環境
- 4 夢中になる環境の持続的保証
- 5 子どもの経験から考える保育環境の質
- 6 2つの指向性の中で

【9日の「教育講演会」の概要】

- 1 確かな学びのための教育の質とは
- 2 多声的対話として聴き合い響き合うために
- 3 学びの見える化のために
- 4 課題の焦点化と吟味
- 5 聴きあい語り合うことから知識の創造・定着へ  
吟味・振り返り・学習環境の充実
- 6 学びあう学校づくり



教育研究員の感想

秋田教授は「記念講演会」の中で、「0～18歳まで、2つ視点が大切である。」とおっしゃっていました。一つめは、安心感(居場所作り)を保証。二つめは夢中になっているか。ということです。

大人になっても、この2つは大切なことではないかと思いました。安心する環境の中で、何かに夢中になっている姿は人としても大きく成長し続けられます。とても素敵なことです。

今、私も好きなことを学ぶ機会を与えてもらい保育の充実に向けて夢中にならせてもらっています。

子ども達も同じように、周りにいる人(教師)の人的環境や環境構成により、夢中になり方や学び方が違ってくるということを長期研修を通して感じています。

他園に出向いて環境を見る機会が少なく、研修がないかぎり他の教師の保育室を見て学ぶ機会がないので、隣のクラスと写真を撮って見せ合う、保育環境の改善には良い考えだと思いました。

写真で客観的に保育の見直しをしていく方法を取り入れていきたいです。(金城睦子)